

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史の伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

3月号 サマのプログラム 日程 参加申込書
フットサル大会



編集発行人： 濱塚有史 発行所： 特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka>

大切な宝物

森澤子 (盛岡YMCAリーダー)

大学と盛岡YMCAのリーダーを卒業して早いもので6年が経つ。社会福祉を学ぶために宮城から岩手の大学に進学した。何かサークルに入りたいと思い、大学の掲示板を見ていたところ、盛岡YMCAの存在を知った。「子どもが好き、サッカーや野外活動が好きなあなた」というフレーズにひかれ、盛岡YMCAの門を叩いた。

ボランティア＝奉仕の気持ちとか人の役に立ちたいという気持ちから始める人が多いと思う。私も最初はこの方程式に例外なく当てはまっていた。しかし、実際に盛岡YMCAで活動してみると、何かをしてあげる以上に子どもたちからたくさんものもらっている自分がいた。一緒に活動しているだけで、楽しさや優しさ、温かい気持ちをたくさんもらっていた。それが盛岡YMCAの魅力だと思う。私は、活動に参加すればするほど、夢中になっていった。何よりもありのままの自分を受け入

れてもらえる場所であり、心から笑える場所だった。リーダーの経験を通して、相手の立場に立って考えたり、話したりするという社会福祉を志す上で最も大切なことを学んだ。そして、そこで出会ったリーダー達は今でも大切な仲間である。仕事で悩んだり、困った時は、力になってくれる相手であり、自分が進むべき道を示唆してくれる存在である。

今は宮城に戻り働いているのでなかなか盛岡に行くことはできないが、盛岡YMCAでの思い出は確実に私の生きる糧となっている。くじけそうになった時は盛岡YMCAで笑ったり泣いたりしたことを思い出し、「うん、大丈夫。まだ頑張れる！」不思議とそう思う。当時一緒に活動していた子ども達は中学生から高校生になる。あの子は元気かな、サッカー続けているかな…と思いを馳せることもしばしば。いつかまた会えたらいいな。盛岡YMCAで活動した経験は私の大切な宝物である

YMCAフットサル大会

2月27日(日)今年も恒例の盛岡YMCAフットサル大会が岩手県立大学体育館で開催されました。この大会は、この時期、雪の上で活動しているYMCAのサッカースクールに通っている子どもたちを対象に体育館で思う存分ボールに触れてほしいという願いのもと始まりました。

いつしか、午前中はサッカースクールの子どもたち、午後は、OBの中学生、高校生を対象の2部構成になりました。今回は、午前の部に60名、午後の部に40名のYっ子が集い、賑やかにボールを追いかけました。参加者に① サッカーの好きなところ、②今までにあった珍プレイ ③ YMCAの一番の思い出、④ サッカーをする後輩ひ一言という順番でインタビューしてみると…



↑左 コウキ君 (高校3年)
①みんなで一つの目標に向かって頑張れること。
②キーパーじゃないのに試合でダイビングキャッチしたこと。
③タロウくんと一緒にプレイできたこと。
④俺を目指せば日本一持てるよ

右 タロウ君 (高校2年)
①キーパーをしていてボールを止めた時。
②ボールを蹴ろうとしたら空振りしてそれがそのままゴール。
③YMCAに行く時すべてが楽しかった。
④サッカーをしたいのに相撲部に入ってはいけません。

左 ダイキ君 (高校1年)
①シュミレーションをするこ
と?
②ペナルティエリアでダイブしてイエローを出されたこと。
③冬に雪上サッカーをしたこと。
④塩分の取り過ぎに注意しましょう。(唇が渇くから)
右 サトル君 (高校1年)
①不得意な左足でボールを扱うところ。
②手前でボールが跳ねて頭を超えてゴールしたこと。
③ヒゲタマゴのシュートを止めた時に手がしびれたこと。
④水分の取り過ぎは良くないよ。(お腹がたぶたぶになるから。)
↓



↑コウタ君 (高校1年)
①なんといっても点を決めた時です。
②ファールスロウ4連発。
③安比での試合
④日々の練習を大切に。多く勝てるように頑張っています。



↑ショウノ君 (小学4年)
①全部
②ノーマークでシュートを外した。
③合宿でパスやドリブルやシュートが上手くなったこと。



← 午前の部のフットサル体会では、お父さんチーム対子どもチームの試合も開催されました。必死でゴールを守るお父さんに教で勝負する子どもたち。最後は、ラグビーのスクラムトライのような形でゴールを奪いました。



そり遊び！ 盛岡市小鹿牧場



冬の遊びで何が一番面白いかというと「そり遊び」。今年の大雪のため、久しぶりに復活したプログラムです。2月6日(日)は、9名の子どもたちと4名のリーダーが参加。少ない人数のこじんまりとしたプログラムでしたが、直滑降で、自らころばない限りとまらない、そりのスピード感と、迫力を子どもたちは、体全体で感じとっていたようです。急勾配の牧場の坂を何十回も滑っては登る子どもたちのパワーにリーダーたちは脱帽。翌日はほとんどのリーダーが筋肉痛に悩まされていた

ようでした。



スキー&雪祭り体験 秋田県田沢湖スキー場



みなさんこんにちは！おかわりです！2月19、20日に行われた雪祭り&スキーツアーは天候にも恵まれ、スキーも雪祭りも楽しんでできました☆今回参加したのは、28名の子どもと8名のリーダー達です。マリオスに集まった時からみんなワクワクが抑えられない様子。行きのバスの中から歌ったりクイズしたりと盛り上がりつつある様子でした！スキー場で難しいコースにチャレンジしたり、そりで高速を楽しんだ後はいよいよ雪祭りです。雪祭りの楽しみ方も人それぞれ。くじ引き屋にすべてをかける子、雪像をあらゆる角度から眺める子、坂があればとにかく滑る子…特に最後の花火は爆発の振動まで体で感じることができました。今回の雪祭りが参加した子の心と体に残ってくれたらいいなと思うおかわりでした。

社会人になった シロクマリーダーの料理教室⑤

家村知佳



もう3月です。別れの季節がやってきました。春らしい日差しも少しずつ見られるようになり、窓際でのひなたぼっこがとても気持ち良いですね(´▽`)ノ

さて、今回は少しずつ近づいてくる春を食卓にも向かい入れよう！ということで、春の食材「筍」を使った料理をご紹介します。「筍の直がっお煮」です。

【材料】(2人分)

ゆでたけのこ 120g、水 150ml、削り節 7g、砂糖 小さじ2、みりん 小さじ1、しょうゆ 小さじ2、あれば木の芽 適量

【作り方】

たけのこは厚さ1.5cmの半月切りにする。

鍋にたけのこ、水、削り節を入れ、沸騰したら中火にして、砂糖、みりんを加え、落とし蓋をして5～6分煮る。

しょうゆを加え、ときどき返しながら煮汁が半量になるまで煮詰めたら…完成☆

盛り付けのときに木の芽を添えると彩りも香りもより一層春らしくなりますよ！

筍や木の芽のほか、つくし、わらび、よもぎは芽を出すものとして喜ばれるそうです。春のいぶきを表す食材として用いられます。ほかにも、菜の花やふきのとうなど春ならではの食材はたくさんあります。食事に季節感を取り入れることは食育にもとても大切なことです。どうぞ、季節の味を堪能してみてください。

あの頃君は～ ♪若かった～♪⑥

スカイリーダーの巻



小さい頃の私はとても泣き虫でした。でも、保育園の年長のとき、『泣き虫はみんなを困らせるから悪いことなんだ』と思うようになりました。そんなある日のことです。保育園で遊んでいるときに、転んで膝下のほとんどを擦りむくひどい怪我をしました。『泣いちゃだめ!!』と自分に言い聞かせ、泣きたい気持ちをごまかしながら「あ～あおもしろい♪」と歌い、陰に隠れて座り込んでいました。すると、担任の先生が駆けつけて来て言いました。「泣いてもいいのは本当に悲しいとき、本当に嬉しいとき、本当に痛いときだよ。だから、今は泣いてもいいんだよ。」と。それを聞いてホッとして大泣きしたのを覚えています。先生は、きっと私の気持ちを全部わかっていたのでしょう。

恥ずかしいことに、22歳になった今も泣き虫のままです。でも、泣く前には先生のあの言葉を思い出します。皆さんにも今も忘れられない誰かの言葉はありますか？聞いてみたいものです。ありがとうございました。



(岩手県立大学
社会福祉学部4年
辻田優芳)

叙勲にさいしての思い

盛岡YMCA理事長 石渡隆司



私は、平成22年秋の叙勲に際し、哲学(医学哲学を含む)の教育・研究上の業績を通して社会的な貢献があったということで、「瑞寶中綬章」という勲章を授けられることになり、さる11月の9日に国立劇場と皇居とで行われた、授与式の一連の行事に参列してまいりました。その間の11月の3日には、各種報道機関を通して叙勲者氏名が公にされましてたため、多くの方々から直接間接に祝意をお寄せいただきました。盛岡YMCA並びに盛岡ワイズメンズクラブの皆様にも、この紙面をお借りして、心から御礼を申し上げます。

受章の根拠となった私の仕事の中心は、20世紀の初頭から、学問としてまったく別々の道を歩み始めた「医学」と「哲学」との間に、両者の間に潜在する共通理念を見出して、それを核として双方の学問的な対話が可能になるような、舞台を作ることであります。

一方の医学は、19世紀後半以降、観察を重視してきた生物学から離れて、次第に物理学や化学の方法をモデルとする実証を最重視する精密科学を目指すようになり、生きていく人間の身体についても、その内部で起こっている諸現象を、機械的な因果理論で説明するようになっていきました。また、他方の哲学は、もっぱら人間の精神の内部構造の分析に向かい、人間の思考や意識の働きの構造の探求、したがって、どちらかといえば脳の働きに集中していて、身体の個々の機能やその疾患などについては無関心であったといえましょう。

近代の学問の発達には、それぞれの分野が細かな専門に分化して、たがいに隣接の領域でさえも容易に理解できないような方向に進んできましたから、医学と哲学との間でも対話が難しくなっていたことは、無理もないことではありました。

しかし、私の学んだ学問は、もともと、医学と哲学とが一つに結ばれていたか、両者がそれぞれ独立していたとしても、双方の関係がきわめて密接で、絶えず対話が、時には論争が繰り返られていた時期の哲学でしたから、この二つの学問領域の間に橋を架けて、両者の対話をとおして、20世紀の心身の分裂状態を脱して、健全な、全一的な人間観の形成に貢献したいというのが私の思いでした。

申すまでもなく私の達成できたものは、目標から見ればきわめて小さな一歩にすぎませんが、もしこのたびの私の受章が、今や時代や社会がその必要を認め始めたことの証であるとするれば、私とその榮譽を受けることを辞退するべきではないと考え、有り難くお受けした次第です。

私が目下主として係わっております、小規模事業の経営業務に追われ、お礼のご挨拶も出来ず失礼をいたしておりました。

私自身はこれまで諸先輩の叙勲のさいには、祝会の発起人となったり、祝辞を述べる役をつとめたことはありましたが、自分がその対象になることは予想もしていませんでしたので、正直なところ、この数週間は何となく戸惑いの中で明け暮れており、いくつかの組織や仲間からの祝会のご配慮についても、当面はご辞退申し上げているところでありますのでどうかご放念くださいますようお願いいたします。

2月サンデースクール

2月13日(日)にYMCA前潟センターでサンデースクールが行われました。今月は本物の竹を使った、竹とんぼ作りをしました。3人の子供たちと8人のリーダーの計11人が参加してくれました。

まずは、みんなが揃うまでの間、バンブーダンスをして竹と触れ合いました。リズムがずれてしまうと竹に挟まれてしまうので、リズムに乗って上手にジャンプし、スリル感を楽しんで遊びました。

竹とんぼ作りでは、あらかじめ割ってある竹の短冊を彫刻刀と紙やすりを使って形を作っていました。リーダーからコツや力加減を教えてもらい、みんな慣れない彫刻刀を使って一生懸命削っていました。中には「紙やすりだけで竹とんぼを作る」とチャレンジする様子も見られました。真剣に黙々と削っている中にも、近くのお友達や遠くにいるリーダーと会話が生まれたり、その会話を聞いて周りの子が笑ったりなどのかかわりも見られ、アットホームな雰囲気の中楽しい時間を過ごすことができました。2時間はあっという間に過ぎてしまい、もっと時間があればいいのに、と帰るときは名残惜しそうでした。

またみんなと会って、遊べる日を楽しみにしています(´ー`)ノ☆



3月の予定

★3月6日(日)
 学童保育 前潟校説明会
 於：YMCA前潟センター

★3月6日(日)
 サンディスクール
 「うどんを作ろう」
 於：YMCA前潟センター

★3月13日(日)
 学童保育 前潟校説明会
 於：YMCA前潟センター

★3月15日(火)

盛南サッカースクール3期終了
 ★3月16日(水) 水泳水曜コース3期終了

★3月17日(木)
 松園サッカースクール3期終了
 ★3月17日(木)
 中学生準備英語木曜コース3期終了

★3月18日(金)
 学童2年英語コース3期終了

★3月18日(金)
 篠木サッカースクール3期終了

★3月19日(土)
 本町サッカースクール3期終了

★3月20日(日) チャリティ

フットサル大会
 於：岩手県営体育館

★3月21日(祝)
 中学生準備英語月曜コース3期終了

中3長文読解英語3期終了

★3月21日(祝)
 土測サッカー3期終了

★3月21日(祝)～25日(金)
 ○ 低学年英会話教室
 於：YMCA前潟センター

★3月22日(火) 水泳火曜コース3期終了

★3月22日(火)～26日(土)

スプリングスクール
 於：YMCA前潟センター

★3月22日(火)～26日(土)
 ○ 春期英語講習会
 於：本町センター、前潟センター

★3月28日(月)～31日(木)
 サッカー合宿
 於：高田松原野外活動センター

★3月29日(火)～31日(水)
 アドベンチャークラブ
 「秋田の分校に泊まるう！」
 秋田県仙北市田沢湖潟
 「思い出の潟分校」

感謝

2010年度 2月27日現在

順不同・敬称略

国際協力募金

Michael Jackson (匿名) 吉田光希 (サッカースクール) 庄司翔太 (学童保育)、三上彩音 (水泳教室) 川村愛聖 (学童保育) 鈴木聖流 (学童保育) 関まなな (関希(ベスト・キッズ)) 菊池崇江 (ワイズメンズクラブ) 及川響 (ジュニアユースサッカー) 山本真大 (ベスト・キッズ) 西里龍哉 (学童保育) 濱塚牧人 (ジュニアユース) 濱塚直樹 (メンバーOB) 矢田部直輝 (ベスト・キッズ) 菅原陸・柊・空 (ベスト・キッズ) 阿部実結 (学童保育) 伊藤柊馬 (ベスト・キッズ) 三上隆生・絢土 (ジュニアユースサッカー) 廣田貴大 (サッカースクール) 高橋翔汰 (水泳教室) 吉田伶 (学童保育) 宮野桐次 (水泳教室) 田村孝太 (水泳教室) 山崎詩織 (学童保育) 阿部春陽 (学童保育) 小船秀斗 (水泳教室) 千葉木育 (ワイズメンズクラブ) 佐々木良英 (学童保育) 水田賢次 (理事) 伊藤克見 (維持会員) 伊藤喜代 (維持会員) 工藤直子 (維持会員) 大関靖二 (ワイズメンズクラブ) 濱塚秋二 (維持会員) 川守田浩 (維持会員) 重石桂司 (監事) 鶴丹谷三千代 (理事) 原田麻由 (リーダーOG) 南原良哉 小林茂元 川底拓洋 (水泳教室) 川底優祐 (水泳教室) 荒川真輔 (サッカースクール) 興盛工業所若手支店 伊藤眞一郎 (維持会員) 伊藤みどり (維持会員) 小畑孝子 (維持会員) 新里ちえ子 (維持会員) 杉下一郎 (元メンバー保護者) 清水弘一 (常議員) 石崎稜、一之 (ジュニアユース) 千葉代子 (ワイズメンズクラブ) 布川英樹、英里香、里樹 (サッカースクール) 宇土澤光里 (水泳教室) 佐々木エル (学童保育) 森岩孝文 (英語教室) 大谷樹生 倫也 (水泳教室) 和田海璃 (学童保育)

感謝

2010年度

順不同・敬称略

維持会員

菊池崇江、熊谷太、鶴丹谷三千代、水田賢次、新里ちえ子、金田一世美子、重石桂司、大関靖二、長谷川精一、北田アユ子、藤村治之、伊藤克見、伊藤喜代、濱塚秋二、濱塚れい子、布川雅樹、布川直子、神永瞳、小畑孝子、松尾聡子、及川茂夫、及川恵、川守田浩、晴山真理子、工藤直子、竹内一真、清水弘一、吉崎陽、千葉代子、今松桂子、金野東輝子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、阿部靖、今野聖子、今野健男、金田節子、中原眞澄、古澤伸、角谷晋次、角谷千代子、佐藤翔、伊藤眞一郎、伊藤みどり、長岡正彦、越前谷洋子、池田二郎、深澤秀男、深澤多喜子、石渡隆司、濱塚有史、濱塚真美

寄付金

熊谷太、水田賢次、長谷川精一、伊藤克見、伊藤喜代、布川雅樹、布川直子、神永瞳、及川茂夫、及川恵、川守田浩、工藤直子、清水弘一、吉崎陽、今松桂子、杉下一郎、井上修三、阿部靖、今野聖子、中原眞澄、角谷晋次、佐藤翔、伊藤眞一郎、伊藤みどり、越前谷洋子、池田二郎、石渡隆司

★維持会員★

盛岡YMCAは、1983年から活動を始め世界を見つめながら盛岡の地域に根ざした活動を多くの方々に支えられながら続けてきました。維持会員とは、盛岡YMCAの活動に賛同し盛岡YMCAの活動を支えるため、維持会費を払って会員となった方々です。

●盛岡YMCAの維持会員としてYMCAの諸活動をおこなうには、申し込み方法は、YMCAにお問合わせ下さい。

こほれ種⑤ 「管理」する対象は・・・?

日本基督教団 内丸教会牧師 (元日本YMCA同盟 主事 中原真澄)



私は30歳代後半の3年間、YMCAを離れてあるベンチャー企業で働いたことがありました。ある日、会社の品質管理を向上させるため、ベアリング業界で世界トップのシェアを誇る大企業で、長く品質管理部門の長として活躍した方を招き、お話しを聞く機会を持ちました。品質管理の実践において最も有名な一人で、ストップウォッチで作業を計ったりもする、製造現場を知り尽くした方でした。その話しの中で私にとって最も印象深かったのは、ある質問に対し「人は管理するものではないでしょう」と、事もなげに答えた一言でした。品質と能率向上のための製品管理や作業管理はあっても、人は決して管理対象ではない(共に働く仲間ではあっても)。これが品質管理を極めた人の言葉か・・・と納得したものでした。

YMCAでも、当然に管理の働きはあります。私も管理職として長く、多くの人たちと一緒に働きました。けれども、自分も含めてしばしば勘違いするのは、「管理」とは先ず人を管理することだ・・・と思ってしまうことです。でも、人は決して管理の対象ではない・・・それがストップウォッチ片手に製造現場の厳しさを体験してきた方の言葉でした。ましてYMCAのように、様々なプログラムを通し、関わるあらゆる人が成長していくことを目的とする団体においては、その立場はいろいろでも、誰もがその働きの目的であって、決して手段ではない・・・このことを常に念頭におく必要があります。そこに働く者が皆、自らの働きを通して生き生きと成長し、共に喜ぶ・・・そんな場であってこそ、参加する誰もが喜びをもって成長する場となり得ることは間違いないのですから。

「あなたを造られた主は、今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。・・・私の目にあなたは価値高く、貴(い)。・・・わたしはあなたと共にいる」(イザヤ書43章から)。

～表紙の写真から～



YMCAには週末によくリーダーのOB・OGの方が県内・外問わず訪ねてきてくれます。先日リーダーのOGの方が仙台から来てくれました。二人はひげたまごやさんと同じ学年で、6年前にはYMCAのリーダーとして活動していました。当時はリーダーと子供という関係だった人々が、今ではYMCAの活動に参加していた子供がリーダーになって子供と一緒に遊んでいたりと、リーダーが親となって子供を育てていたりします。人と人のつながりがあり、そのつながりが続いていることってすごいなと思いました。また、立場や方法は変わっても、子供たちとかかわりいろいろなことを伝え合う点は似ているように感じました。これからもYMCAは時がたっても顔を見せたいような場所であってほしいと思います。(いもこ)

写真：(右下) 森 洋子さん (左下) 橋 尚子さんと娘の紗音ちゃん